

青木千代吉先生を偲ぶ

著者	京極 興一
出版者	長野県ことばの会
引用	ことばの研究 8: 4(1996)
発行年月日	1996-10-31
URL	http://hdl.handle.net/10091/00022404

青木千代吉先生を偲ぶ

京極興一

長野県ことばの会は、昭和54年8月5日に発足しました。県内の、ことばに関心を持ち、ことばの生活に心を寄せ、ことばの教育に熱意を抱く人々の結集を目指したのですが、設立に当たっては、青木先生と馬瀬先生と京極が発起人となり、研究分野・活動内容等のいろいろな問題について協議を重ねました。

その中で、青木先生は、特に県下の小・中学校の国語教育が文学教育偏重であると指摘され、この会を言語教育の振興に役立てたいと言われました。本会の初期に、現職の小中学校の教員の参加が目立ったことは、このお考えに基づく成果でした。

また、先生は、設立総会や、その後の事務的な煩瑣な仕事を進んでお引き受けくださいました。会員宛の連絡報、会員名簿（設立時138名、1年後160名）等は、すべて先生のお手になる謄写版印刷です。今、その端正な美しい文字を拝見していると、先生のお姿やお言葉が彷彿として浮かんできます。そして、本会の設立と当初の運営に当たっての先生の御尽力は、本当に大変なものであったと、改めて感じます。

その後、昭和58年4月に、上田女子短期大学に国文科が設置された際、先生は国語学担当教員として迎えられ、付属幼稚園園長も兼務されながら、平成元年3月までお勤めになりました。当時私は同短大に非常勤講師として出講していましたので、しばしば先生と昼食をともにしました。なつかしい思い出です。

このように、先生は、方言研究に立派な業績を残されたばかりでなく、教育界の指導者として、更に、長野県ことばの会の原動力として、幅広い活躍をなされたのでした。この度のご逝去の報に接し、先生を偲び、感謝の念を新たにするとともに、言い知れぬ淋しさを感じております。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

(きょうごくおきかず・上田女子短期大学学長)